

キリストの光 光のキリスト

年間第17主日 7月29日

(ルカ11・1-13)

祈りについて考える時、よく思い出すことがある。

ずいぶん前のことだが、ある教会で「祈り」についての黙想会か講演会があった。ホールで全体会があった時、一人の高齢の方が次のように言った。「最近の若い人は祈りを知らないし、祈りをしない。特に新信者（成人洗礼のこと）をさすのだろう」は……。司会の方が「誰か最近洗礼を受けた方がおられますか」と尋ねた。一人の男性が手を上げた。「今の意見をどのよう

「主の祈り」だけ？

ださった『主の祈り』で十分です。この祈りのおかげで、ゆつくりと落ち着いて祈ることができます。どのように祈ったらいいかも教えてくださっているのです、そのようにしているだけです」

イエスは弟子たちに祈りの言葉と祈り方を教えた。ミサで唱える「主の祈り」はマタイ福音書で伝えられている形だが、今日のルカ福音書ではより端的な言葉で伝えられ、終わりに、求める者に「聖霊が与えられる」と言う。

イエスは「まず神の国と、その義を求めなさい。そうすれば他のすべてのものは与えられる」とも言っている。

いつから祈りはイエスの教えと異なったものになってい

ったのだろう。「言葉数が多ければ聞き入れられる」と思
い込んでいるみたいだし…。
神はすべてをご存じなのに
「くどくどと」つぶやいてい
るみたいだし…。イエスは



「祈るときには、こう言いな
さい」と言って教えてくださ
ったのに、なぜ主ご自身が教
えてくださった祈りにいろい
ろと付け加えるのだろうか。
不思議に思えてならない。

「御名が崇められますよう
に。御国が来ますように…」
この言葉、この思い、この願
いで十分ではないか。

わたしたちは、あまりにも
たくさんしゃべりすぎる。も
っと聞いてはどうだろうか。
神だって、わたしたちに話し
たいことが山ほどあるだろ
う。御名が崇められるため
に、御国が来るために、わた
したちにしてほしいことが神
にもあるはずだ。御名が崇め
られるためには、御国が来る
ためには、わたしたちが何か
をしなければならぬ。その
ためにわたしたちは神から呼
ばれ、使命を受けている。神
のみ旨、望みが実現する時、
わたしたちの望みも実現して
いく。

主が教えてくださった祈り
をする時、神の力である聖霊
が与えられ、聖霊がすべてを
「良く」してくださる。

主日のミサで、すべての人
と心を一つにして「主の祈
り」を唱える時、希望と喜び
に満たされる。わたしたちの
望みは、父の望み通りになる
こと。父の望み通りになる様
を、わたしは山ほど見てき
た。

(山元真||福岡教区司祭/カット||高崎紀子)

今週の福音

8月

30日 月	マタイ	13	31	—	35
31日 火	マタイ	13	36	—	43
1日 水	マタイ	13	44	—	46
2日 木	マタイ	13	47	—	53
3日 金	マタイ	13	54	—	58
4日 土	マタイ	14	1	—	12